

総力特集

POEM`99inTOKYO

事務局 吉田

ことしも行って来ましたよ。POEM。

初めての関東での開催となった今回は、会場を玉川学園に据え、「Beyond Classroom【教室が世界】から【世界が教室】へ」をテーマに様々なセッションを交え、真夏の東京で熱いパーティを繰り広げました。

我々北海道支部チームは恒例のPOEM 一行様と言うことで、総勢20余名のツアーを組み、玉川に乗り込むことにしました。

折しも北海道は連日猛暑が続き、線路が熱で膨張し電車のダイヤが大幅に乱れてまして、初っぱなから三河先生が飛行機に遅れ



清水先生、今回は全面的にお世話になります。

るというハプニングがありながらも、なんとか無事に到着し、準備が着々と進んでいる玉川学園へと入りました。

会場の玉川学園(<http://www.tamagawa.ac.jp/>)は、うっそうと茂った森の中に、幼稚部から大学までの様々な施設が点在し、その中央を小田急線が横切っているという広大さ。農学部では酪農や養蜂にも取り組んでおり、その成果物が特製アイスクリームや蜂蜜などとして実際に購入できることは有名です。今回は視聴覚センターがメイン会場となり、ホールと大小の教室とを組み合わせ、講演や発表を行います。我々北海道支部は、「インターネット探検隊」という部屋を担当し、今回初めて参加する「Think Quest」(<http://www.thinkquest.gr.jp/>)のプログラムの日本事務局・グローバル・ commonsの皆様との共同セッションで、様々な取り組みを発表することになっていました。視聴覚教育のメインになる教室で、WindowsNT40台とプレゼンテーションのシステムが並ぶ姿は壮観です。また我々たらプレゼンの仕組みがよくわからなくてがちゃがちゃいじってたりして。

準備の後、幹事会を終えらるともう既に7時半、初日はすっかりへろへろになりながらの支部懇親会を行いました。最後にぱったり玉川、矢野チームと合流、1時過ぎまで生レモンやら生グレープフルーツを絞りながらこれからの取り組みを語り合いました。ちなみに今回のお宿は「町田スカイプ ザ」(おいおいラが消

えてるよ～)という昭和50年代を感じさせるレトロなホテルで、玄関先をアフロアメリカンのお兄ちゃんたちが守ってくれていました。彼らの間では見澤先生が一番人気。でも、冷房はちゃんと効いていて、連日熱帯夜の札幌よりよっぽど過ごしやすいくことに気がつきました。

翌日、いよいよ開幕です。今回スタッフはお揃いの黒のポロシャツ(POEM`99 刺繍入り)とLEDが光るエデュースくんバッジを身につけ、みなさんをお出迎えしました。

プレオープニングのセレモニーでは全米の大会で1000あまりのチームの中で5位に輝いた成績を持つという玉川学園のダンスドリルチーム「ジュリア かいちょう。さあ、レッツ・クリック!でスタートだ。」のメンバーが、華麗でファンキーなダンスを披露してくれました。また、がらりと変わって講堂では芸術学部の学生さんによる「スタンウェイ(高いよ)」のピアノの演奏が行われ、多様な玉川学園の取り組みに早くも度肝を抜かれた格好になってしまいました。

6月から取り組んでいた「オープニングアニメプロジェクト」の成果として、明星大学の清水健太郎くんをリーダーとする学生4人のCGと音楽のコラボレーションで、オープニングの口火が切られ、続いて恒例の渡辺会長の「Let's Click!」で華やかに開幕しました。



玉川・大谷先生のプレゼンは流れるよう。今度お目にかかりたいです。

今回、玉川の小原学長は別の行事でどうしてもPOEMに参加することが出来ず、ハワイからピクチャーテルでの遠隔ご挨拶をいただきました。続いて、玉川中等部の大谷先生から、これもピク

チャーターによる遠隔プレゼンテーションで、英語のWeb教育の取り組みが紹介されました。玉川の先生方はプレゼン慣れもさることながら、ピクチャーテルでの音声のディレイとかそういったことにもずいぶん慣れてらっしゃるようで、COTFの時によく話題になった、Distance Learningは回線スピードや画像転送技術ではなくテクニックだ、ということが思い起こされました。

合間合間には、溝口先生のアテンドで、小学部見学のツアーが開催されてました。私は残念ながら参加できなかったのですが、学校中どこを見回してもMac、Mac、Macという驚くべき環境で、先日玉川チームとサンノゼで合流したビー・ユー・ジー田崎さん



NT40台どーんの視聴覚教室。黒ボロ軍団が準備中です。

も「ハーカースクール(レター5月号参照)の環境に限りなく近い」とおっしゃってました。

教室の発表の方は、ちょっと入りが悪くてあまり乗らないプレゼンテーションとなってしまったので、そうそうに切り上げ、この日の目玉、基調講演その一、山極隆先生の「総合的な学習の時間における情報教育」を聴くことにしました。POEMの講演らしく、まず壇上に上って上着を脱がれた後、わざわざネクタイまで取って、お話を進めてくれました。

(講演録)

総合的な学習の時間というのが教育課程の中に組み込まれてきたわけだが、大正時代からこういった考え方の教育は我が国でも盛んに行われていた。自由研究などといった形で子供たち自身が課題を見つけて自分の知識を動員して行う学習というのは様々な形で実践されていた。

今回改めてテーマとしてあがってきたのは、昨今与えられたことしか出来ないと言われていたこどもたちが21世紀の社会を生きていく中で、主体的に問題解決をしたり、積極的に自分たちの知識を発信していく能力を養っていく必要がある、ということ的前提に、「生きる力」をどう養っていくかということだ。

知、徳、体と古くから言われているが、とくに「知」の部分を課題解決能力といった要素で自分の頭で考える、問題解決の課程を筋道たてて説明することができるという主体的な力を養っていく。もちろん、徳や体の部分も非常に重要な要素となってくる。

もちろん、学校の中では各教科の学習をしているわけだから、それらを通じて体得していくことは必要なわけだが、教科を超えた形での課題解決、といったことが重要視されてくる。「ゆとりの時間」などといったものも以前はあったわけだが、どうしても教科そのものに埋没しているというのは否めないで、特に時間として総合的な学習を取り入れることが検討された。

完全学校5日制も同時に審議が進んでいて、総授業数を70単位時間減らすことが条件としてあげられている。

問題なのは、総合的な学習を盛り込むために各教科の授業をさら

に減らさなければいけないということで、このあたりから審議会でも意見が割れるようになり総合的な学習にはいろいろな意味があるだろうが、教科を殊更に減らすことで基本的な学力の低下を招くという危惧が高まった。

しかし、学力というのはいったい何なのか、ということに立ち返って考えてみると、特に学校現場外の委員から、アリバイ的に総合的な学習を盛り込んでみても、いったい本来のねらいが達成できるのか疑問を投げかける動きがでてきた。学力低下を危惧するくらいなら、総合的な学習の時間の中で、工夫をしながら学力の質を維持することを努力する必要があるのではないかという論議が巻き起こった。

議論を経て発表された時間割をみて多方面に波紋が起こった。あがってきた時間割にはかなりの割合で総合的な学習が配置されていた。105時間、というのは小学校3、4年生でいうと国語、算数に次ぐ時間の多さだ。アリバイ的な授業にとどまらず、本気で取り組まなければいけない時間数であることは間違いがない。

総合的な学習の特別委員会が作られ、時間数が決まったとして学習指導要領にどう盛り込むかの議論が繰り広げられた。最初の総則の中に総合的な学習のねらいと位置づけをはっきりと盛り込み、時間数の多さをあげた。肝心の「なにをやるか」に関してはくどくどと書くのをやめ、学校や地域の実態に応じて工夫がなされるべきなのではないかということになった。

そうはいつてもなにも書かないわけにはいかないので、国際、情報、環境、福祉などの事例を盛っておくことにした。これも単なる事例でしかない。教材も各業者が工夫していくことが望ましい。

各学校の準備が整い次第、早いところは来年度から実施することが決まっているが、現場は大変不安であって、それがこの夏あたりのセミナーや研究会への熱心な参加につながっている。教科書もなにもないような状況では当然なことだろう。



なかよし。本部事務局上田さんと上越教育大小川先生。

全連小で実施したアンケートの結果があるが、どのような学習活動を設定し展開しようとしているかという問いには多い順に「地域や学校の特色に応じた課題」「環境に応じた課題」「福祉・健康に関する課題」「興味・関心に基づく課題」「国際理解に関する課題」「情報に関する課題」などがあげられた。どれも抽象的な内容で、今ひとつ具体性には欠けるが、とくに情報関連への取り組みが全体的にいうとかなり関心が低い。ACEの会などは非常に得意な状況で、生活科の先生の集まりなどにいくと、およそインターネットなどの話題は上らない。設備もリテラシーも整っていない現状では無理もないことだ。

国際理解、という考え方から鑑みると、小学校のうちから外国語を教えることも可能なわけだが、実際の現場の事情を考えると

そういうわけにもいかない。どうしても取っつきやすい、抽象的なテーマを取り上げようとしていることがわかる。

情報や国際化など、ダイナミックな学習の形に進化していくためにはまだまだ研究を重ねる必要があるだろう。

一つモデルとして考えられるのは、小・中・高の学習全体を一つの流れとして考え、中学の情報基礎を「情報とコンピュータ」と変え、原則1年生が必修科目として学ぶことを条件とした。高校でも必修で情報という教科をもうけ、高等学校関係者の大反対に遭いながらも盛り込んだ。現在教科書が急ピッチで作られている。

その基礎の基礎となるべき小学校での情報の学習が、総合的学習の時間の大事なインターンシップとして盛り込まれる必要がある。

今まで中・高では外国語は選択教科であって、流れで英語が学ばれてきたわけだが、これも必修科目となった。そのなかで、小学校の外国語教育というのも国際理解という側面から、重要な要素となってくる。韓国では小学校で英語を学んでいるし、中国でも大部分の小学校で英語を学ぶという傾向になってきている。

外国語や情報、というのは社会の中で便利なツールである。これを活用することが重要なことである、ということを理解しながら考えを広げていく必要があるだろう。

国でも情報教育を重視する提言があがっているし、枠組み、というのは今回こういった形で作ったので、是非これに魂を吹き込んでいくための論議を深めてほしい。

この会を通じていろいろな示唆をいただきたい。(文責・吉田)



道幸先生は荒島先生ら理科教員軍団と「環境の部屋」で活躍。

この後、幹事団と玉川のスタッフとの交流の場が設けられ、白井組長のしきりと玉川再若手、溝口先生の気配りの中で、町田の夜は更けていきました。

翌二日目、講堂では玉川の先生方を中心に、様々な発表が行われました。一方、すこし盛り上がり欠けた3階の発表教室陣では、4つの教室のメンバーそれぞれがお互いの教室を訪問しあうことで、少しでも発表の内容を吸収し、盛り上げようと「プレゼン互助会」を展開しました。我々北海道支部はもちろんのことですが、Web教材のコンテスト「Think Quest」や郵政省の「通信白書 for kids」のハンドリングを行っているグローバル・コモنزの発表や様々な仕組みを通じて障害者教育を発展させる取り組みを着実に続けているMES 障害者とコンピュータ利用教育研究会、内田洋行の協力を得て様々な教材機器を展示しプレゼンした環境教育の部屋、またSONYのプレゼン用ホワイトボードなど、協賛企業のいろいろなハード・ソフトを用いた教育事例を展開した「未来の教室」など、実は結構盛りだくさんの内容だったのです。

ステージ上では「リレートーク」も行われ、いろいろなテーマを盛り込んだのですが、時間がなくてちょっと消化不良、武田支部長もしゃべり足りなそうでした。(それはいつものことか)

基調講演その二は明星大学教授感性教育研究所所長の高橋 史郎先生の「情報化社会における感性・心の教育」というテーマでした。今話題の学級崩壊などを「感性」という切り口で語るものです。

(講演録)

悩める教師のための相談をうける組織を作ったところ、非常に多くのメールや手紙をもらい、正直ここまでであったかと驚いている。

私語や立ち歩きで授業が成り立たない、学級崩壊という現象はマスコミが一部の例を取り上げて騒いでいるだけだと考えていたら、非常に様々な場所でそういった現象が起きているという事実がある。

いろいろな形で我々の生活の変革に伴って、感覚も変わっているというのが事実である。こどもたちの対人関係能力が幼児のうちから落ちてきているということが母さんのアンケート調査でも如実に現れている。一斉保育から自由保育に変わったということが、小学校に就学したときの一斉教育へ変わるときに断層を生んでいるのだ。

情報化社会が持ち合わせている光と陰を我々は非常に注意深く認識しなければいけない。中近代には暮らしの中にいろいろな形で余裕があって、いろいろな感覚を抱くことが自然に培われていた。情報化社会の中で「実感」というものは非常に重要な要素になってくる。不登校の児童が体験学習の中で閉じた心を開く兆しを見せた。中学校に戻るとまた不登校の傾向が戻ってきてしまう傾向にあるが、ある一定の成果を出している。自己肯定の感覚をいろいろな体験学習でうまく引き出していくことが出来る筈だ。

自然に対する体験がこどもたちの間でとても希薄になっている。情報化社会が自己表現力を磨く、というのはすばらしいことだが、逆に陰の部分、人間関係の連関性の薄さ、現実感のなさといった



高橋先生の講演。こどもの感性をどう考えるのか？難しいテーマです。

ものを認識しなければいけない。実体験が心のエネルギーになる、ということを通じて行っていくことを目指している。

北海道の教護院で、様々な作業をする体験を通じて、「本音」を引き出すということが出来ることを実際に目の当たりにした。理解の深部にある実感するという要素を含んでいるのだが、その実感の部分がどうもかけているのではないかと。

感性の教育というのは、実感のそれぞれ異なる部分を表現をして、イメージを深めあい分かち合い、認めあうということだ。実

際に和歌や短歌を作るということを通じてそれを実践している学校もある。

「共活」という言葉で価値観や感性の共有をしていかなければいけないのだが、そこを理解する余地のある教員の側の感性というのも非常に重要になってくる。これが可能でなければ、かえってこれは有害だ。感じ方はOnly Oneなのであって、個性というひとりひとりの「違い」の良さを理解しない感性の教育はだめだ。

こどもは小さいうちは学校でも元気よく手を挙げるが、次第に先生の顔をうかがって正しい答えをしなればいけないという感覚が根付いてきて、どうしてもおどおどしてしまう。いろいろな形で減点主義の手法がまかり通っていて、病院でいう治療「cure」はあるのだが、「care」の部分が欠如している。

不登校の子をどうやって減らすかを苦心して取り組んできているが、学校に出てきた子が一人の教師の「がんばれよ」「久しぶり



感動のフィナーレ。さあ、来年は関西だ！

だな」という一言でまた不登校に戻ってしまうというケースがままある。そういったひとことひとことが逆にこどもを追い詰めるのだ。

学級崩壊はベテランの教員の間でパニックを巻き起こしている。数十年培ってきたテクニックが全く通用しない。親に十分かまわれない低学年のこどもたちが教師に甘えるという形で低学年の学級崩壊を生んでいる。一方高学年の学級崩壊は教師に対する集団の挑発、挑戦だ。これはこころのキャッチボールであり、これをどう受け止めるか、どう投げ返すかが課題になってくる。そういったことのできる名人は限りなく少なく、カウンセリングを行ってもなかなかうまくいかない。

いじめは排他性から生まれるわけだが、日本の学校は同一性を重視する排他的な組織を作り上げている。いわばいじめを自ら生み出す環境を作っているのだ。多様性をいかにして作ることが出来るのが重要な課題となってくる。

自由型の教育はよく放任と混同されているが、独立心がかけている中では実践できないものだ。独立心や精神の自然治癒力を高めていく上で、どういったことを考えなければいけないか。感性や心の教育がもたらすものと、受験の学力とが全くの別物だという誤解がされることがあるが、それは間違いだ。

情報化社会が持っている様々な利点をより深く感性を養うことに役立てていくべきだ。知が深まれば感性が深まるし、感性でとらえたものを理解で裏打ちしていくことも重要だ。相互の補完関係がここで成り立っている。感性は問題解決や思いやりにも深く関わっている、「心の海」であり、「心のエネルギー」だ。

臨教審の委員をしていたが、トップダウンで制度を変えることが大きく意味のあることとは思えない。人格を否定すると「ムカツキ」「キレる」。人格を肯定しながら行為のみを否定する、とい

うことが重要になってくる。Only Oneの良さを理解してあげるやさしさがあれば、こどもをかえることが出来る。

こどもの前に壁になって立ち足ばかり、いろいろな問題を解決してほしいが、それを温かい心で、優しくキャッチボールをしていくことを現場の先生に望みたい。

不登校や学級崩壊は狭められた選択肢の中で、せめてもの選択をしたいと望むこどもの行動の現れだ。情報ということが注目されることによって、光が当たれば当たるほど、陰も強くなる。情報化社会に基づいたツールを使いこなして、感性をどのように伸ばしていくのかを期待したい。

【質疑】感性が日本的なものだということをもう少し詳しく、、、

西欧では自然帝国主義とでもいう強引さで自然を征服してきたが、逆にそれが環境破壊に結びついている。「流汗悟道」という言葉にあるような、自然を取り入れるやり方、バランスや調和というものを非常に大切にしている。マイナスと見えるところにプラスを見出すということが実は本来東洋的な考え方としてあるということだ。

西洋的にはAでないものは非Aという考え方が主だが、ともに互いを活かす、ということで重要なことは相手との違いをどう理解するかということだ。自分が持っていないものを相手に見出すということで補完することができるという考え方を我々は出来るのだ。(文責 吉田#今回はちょっと難しくて自信ないな)

そして、なんとオープニングを飾った学生チームが期間中の写真をまとめて即作ってくれたエンディングのアニメーションを皮切りに、感動のフィナーレへと突入です。

西澤関東支部長から中島関西支部長へのエデュースくんセットの厳かな戴冠の儀式があり、次回POEM2000は関西での開催であることが知らされました。そして、今回汗を流したスタッフ、ボランティアがステージに集い、新しい教育の形を実体験する2日間を締めくくりました。

撤収の後催された全体の懇親会では、玉川のスタッフの先生方から思いがけない合唱のプレゼントがあり、初日のジュリアス、ピアノに続いてまたまたやるもんだ、という感じでした。恒例の協賛企業からのご厚意による抽選会も行われ、またまた北海道支部もいろいろと当てまくって帰りました。最終的には各支部の幹



集合。この後すぐ、学生たちは列車の旅へと向かいました。

事らのうち町田宿泊組が集まって、あちこち呑み歩いた後にまたグレープフルーツ絞ったりしたらしいです。

さて、翌日は2月の総会ですっきりおなじみの秋葉巡りグループと前橋で開かれた「Net Dayサミット」に参加するグループ(なんと7時起き)とに分かれて行動です。

秋葉組はお約束の「ぶらっとホーム」や「若松通商」「秋葉館」

「イケショップモバイルプラザ」「秋月電子」などのディープなお店をひとしきり巡った後(高本さんMacばかりでゴメン)、またまた神田藪そばに行ったのでした。

この後、いろいろなところでダッシュする羽目になったりモノレールのドアをこじ開けたりしたりなぜか高本さんのとなりが可愛いジュニアパイロットだったりしたのですが、良く覚えてません。まあ、無事だったからいいか。

このあと、来年の関西を経て2001年のPOEM開催は北海道で、ということが確認されました。2年後にはまたいろいろな形で世の中も変わっていることは思うのですが、北海道支部はみんなの予想をひっくり返すびっくりするようなPOEMにしたいと考えてますので、みなさんよろしくお願いします。

最後になりましたが今回のPOEMに協力してくださったACE関東と玉川学園のスタッフの皆様、そして学生や一般のボランティアの方々に一言お礼申し上げたいと思います。本当にお疲れさまでした、そして楽しいPOEMにしてくださいましてありがとうございました。

清水先生はまた来月札幌でお会いできるんですね。9月の札幌はキノコが美味しいんですよ。

「パソコンを使ったインターネットワーキング入門」開催報告

道都大学短期大学部 野口光孝
nogu@netfarm.ne.jp

例年にない暑さの中、7月28日、29日および、8月11日から13日の二度にわたり道都セミナー「パソコンによるインターネットワーキング入門」を開催しました。今回の講習会は2年後の全学校ネットワーク化を前に、これからインターネット接続に携わる可能性のある小・中・高等学校の先生方を対象に、次のことをねらいとして開催したものです。



結構時間のかかるケーブル作成作業

- 1.身近なパーソナルコンピュータを使ったサーバ構築を通して、インターネットの仕組み(各種サーバーの目的、用途、相互関係)について理解する。
- 2.小規模なネットワークの維持管理、意味を理解しながら各種設定を出来るようにする。
- 3.子供たちにわかりやすく仕組みを説明できるようにする。

夏休み中ということもあり、研修会などで忙しい最中にも関わ

らず1回目の7月は25名、2回目の8月は35名の先生方の参加がありました。



荒島先生も夢中です

さて、今回はOSIでいえば物理層からアプリケーション層までやっつけてしまうという企画で、LANケーブルの作成から始まり、ケーブルリング、NICの取り付け、ドライバインストール、TCP/IP設定、WWW、メール、Proxyなどの各サーバ構築、設定までを行いました。学校関係ではNTサーバが主流(?)ですが、この講習会ではサーバマシンにWindows98、クライアントマシンにWindows95を使い、各種サーバソフトはインターネット上のサイトからフリーソフトをダウンロードして使いました。ネットワークの仕組みの理解が主目的ですから、環境はできるだけ身近なもので簡単に使えるものを選びました。ちなみにサーバソフトとして使ったのは、WWWサーバはUNIXで定番のApache、メールサーバとProxyサーバはWinproxyです。全員を7つのグループに分け、それぞれにサーバマシン1台、クライアントマシンを人数分用意して小規模LANを作りました。クライアントマシンからは各グループ内のサーバマシン(Proxyサーバ)経由でインターネットにアクセスする形です。

普段やったことのない作業にとまどいながらも、本当にみなさん真剣に、しかも楽しく、汗まみれになりながら作業を進めていました。特にLANケーブルの作成では、せっかくプラグのかしめまで終わったのにケーブルテスターで導通していないことがわかってやり直しというのが結構あったようで、2mのケーブルが



汗だくになりながらサーバ設定中

完成時には1mになったところもあったとかなかったとか(^)。そうそう、血だらけのかしめ具もあったようです・・・こわい。

7月の講習会はACE後援ということもあり、ACE北海道の面々も数多く参加してくださいました。高橋先生には各グループのトラブルシューターとしての活躍のほか、初日の最後にはNTサーバー管理のお話もしていただきました。2日目には高本さんのProxy講座もあり、キャッシュ機能のみが着目されがちなProxyサーバの編集加工能力について詳しくお話ししていただきました。もちろんひらがなProxyの話もね・・・。

最後は、各先生から受講の感想とともに、それぞれの学校が抱えるネットワークの現状についてお話をいただきました。その後懇親会へ突入し、熱い議論を展開したことは言うまでもありません。参加された先生方からは続編を望む声も聞かれました。これについては冬に向かって実現させるべく計画中です。

最後に・・・今回ご協力くださったみなさんありがとうございました。しかも高橋先生には8月の二回目の講習会でも手伝っていただきました。半沢先生にもお世話になっちゃいました。本当にありがとうございました。

7月「インターネットワーキング入門」の様様
http://www.dohto.ac.jp/mnoguchi/ace_internet/index.html

8月「インターネットワーキング入門」の様様
<http://www.dohto.ac.jp/mnoguchi/internet/index.html>

いよいよ >> バーチャル雪まつり (VSF) 2000「バーチャルからほんものへ」

バーチャル雪まつり 2000 代表 水越 洋

暑かった夏も今日で終わり……。明日からは9月だ。そして1ヶ月半もすれば雪がちらほら……。そうおもったら、急に胸がキュンキュンする方いませんか。この夏、もっとやるべきがあったんじゃないか。なんかわかんないけど、とにかく忘れ物をしたようだとか。妙にあせった気分になってしまう。私だけでしょうか？

しかし、そんなこと考えている暇はないです！ VSF2000があります。巷では2000年問題とか、2000円落としたとか言ってますが、我々にとって2000年問題とはコンピュータが誤作動する年ではなく、めでたい第5回目の「バーチャル雪まつり2000」なのです。

今回で数えること5回目、これまでいろんな思考錯誤がありました。参加者はネットワークにおけるコラボレーションとはどんなことなのかをいろんな風に体験してきました。ネットワーク・コラボレーションとは言っても、参加者全員にそもそもネットワークがあるわけではなかった。また、コンピュータの環境も充分ではなかった。しかしながら、我々にとって一番大事な「雪像をつくる」という熱意やコンテンツの中身がそのような充分でない環境に一度も左右されることがなかったというのは最大の誇りです。バーチャル雪まつりを始めた5年前と比べたら、今の環境はずばらしいものです。これらの環境はますます充実の方向に向かっており、このバーチャル雪まつりの活動もますます盛んに、そして面白い物にしていけるのです。

バーチャル雪まつりを一口でいうと「バーチャルからほんものへ」ということでしょうか。インターネットという国境のないネットワークで雪像のテーマ、アイデアを話し合う。そして本物を大通公園で作る。という非常に単純なものです。

これからの大まかなスケジュールですが、
 ・9月は参加校を募集します。
 ・10月から12月まで雪像についてのコラボレーションをします。
 ・12月の終わり頃にはテーマ、アイデアを決定します。(これが毎年おくれますが、..)

・来年、つまりコンピュータが誤作動をおこすという2000年の1月には雪像制作の準備打ち合わせです。

・1月30日から2月3日までが雪像制作期間です。

まずは VSF2000 のホームページをみてください。まだ出来上がっていない部分もありますが、参加についてのことや、今までの様子を見ることができます。皆さんの参加をおまちしています。(http://www.miceng.co.jp/VSF2000/)

V S F に参加しよう！

事務局 青柳

水越先生の VSF2000 にかける意気込みを、感じていただけましたか？ コラボレーションに参加し、一緒に雪まつり会場に雪像を作りませんか？ VSF へのご参加を、心よりお待ちしております。

(追記) 今回の VSF は、情報処理振興事業協会 (I P A、通産省関連団体) の実施する「情報学習サポート事業」の実験調査テーマとして採択されました。目的は、インターネット・コラボレーションがもたらす教育効果と、講習会などのサポート活動がその効果にどんな影響を与えるかを検証すること、さらに優れたインターフェースを持つコラボレーション用のソフトウェアのあり方をプロトタイプの開発を通して調査することです。この事業に参加するなかで、今回の VSF はこれまでにできなかった部分に広がりを持たせて実施していきたいと考えています。皆様のご理解とご協力をお願いします。

「バーチャル雪まつり 2000」実施概要

実施時期

1999年9月～2000年2月(第51回さっぽろ雪まつり終了時)まで。

実施体制

主催：さっぽろ雪まつり実行委員会、バーチャル雪まつり2000実行委員会

主管：教育とコンピュータ利用研究会 (ACE) 北海道支部

後援：財団法人コンピュータ教育開発センター

参加校

札幌市内を中心に、道内、国内、海外を含めて約20校を予定。
 (ご参考：昨年参加校)

小学校：東京都北区立赤羽台西小学校、札幌市立開成小学校、札幌市立平岡小学校、札幌市立発寒西小学校

中学校：札幌市立発寒中学校、札幌市立啓明中学校、札幌市立福井野中学校、札幌市立北野台中 学校、千歳市立青葉中学校、浦河町立浦河第一中学校

高等学校、短大：北海道大成高等学校、北星学園女子短期大学
 ほか学校、個人：造形教室アトリエアイリス、北広島の子供達有志

参加内容

・ホームページ上での雪像アイデアや意見の交換
 ・参加校に対する講習会への参加、または学校での講習会の実施
 ・参加した児童・生徒に対するアンケートの実施(数回)
 ・オフライン・ミーティング(アイデアの詰めや、制作の打ち合

わせを行う)への参加

・雪像制作への参加

(以上は必要部分だけ参加していただくことも可能です)

【お問い合わせ・申し込み先】ACE北海道支部事務局: 青柳、吉田

電話: 011-210-5506、FAX: 011-210-5532、e-mail:

aoyagi@hokkaido-np.co.jp

情報化推進コーディネータ第1回研修会

荒島@札幌発寒中

8月26~29日に、横浜市の岩崎学園内にある神奈川マルチメディアサロンを会場に研修会が開催されました。マルチメディアサロンはNPより若干広く、PCの台数も若干多くしたものをイメージしていただければドンピシャです。

さて、全国から20名(学校関係10名、企業関係10名)が集まりました。ACE関係では私とPOEMで大活躍された玉川学園 Chat-Net Centerの溝口先生が参加しました。意外なところではACE上越の戸田先生のお兄様が参加されていました。

さて、まず最初に4名のグループに分かれます。私のところは岐阜県安八郡輪之内町教育委員会の長屋さん、静岡の株式会社パドックの斎藤さん、グループ内では紅一点、富士通高知システムエンジニアリングの森さんというメンバーになりました。

講義の内容と日程はそれはそれは大変ハードなもので、特に技術系の内容では講師陣のすさまじい突っ込みもあり、学校関係者はヒーヒーと泣いて過ごした4日間でした。そんな中でも荒島&溝口のACEコンビは「せめて人間関係作りだけは!」と意気込み、夜な夜な2人で横浜リバーサイドに足を向け、おでん屋台スタンプラリーを繰り広げました。まさに稚内状態です。>半澤先生

そんな中でも心強いのはACEの暖かいヒューマンネットワーク! 3日目の夜には清水先生が待ち受け、鈴木先生@玉川&平野さんという面子で六本木へと繰り出しました。

特に、研修会間の宿題の量が半端ではありません。これにこりずまた横浜のおでんしかない屋台を濶歩してきたいと思います。

以下、簡単ですが研修会の内容を紹介します。

【はじめに】日頃は日本教育工学振興会(JAPET)の活動にご理解、ご支援をいただありがとうございます。

このたびは情報化推進コーディネータ養成研修にご出席いただきまことにありがとうございます。今回の募集に際しましては、定員20名に対し119名という予想外の受講希望者があり、情報化推進コーディネータに対する、関心の高さを改めて再確認しました。今回の研修は、通常の研修とは異なり、あくまでも情報処理振興事業協会の実証実験という位置づけで実施されるものです。受講者の選考に当たりましては、今回開発のカリキュラムおよびコンテンツの有効性を確認するという観点から行いました。また、受講の皆様には学習以外にデータ提供のためのご協力を多々お願いすることになりますが、趣旨ご理解の上ご協力をお願いいたします。

さて、2002年度から開始される新しい学習指導要領でも明らかなように、学校教育の情報化は一段と進められようとしています。小中高等学校での情報教育は、各教科でのコンピュータをはじめとした情報機器の利活用だけでなく、校務の情報化など、学校教育全体でさまざまな推進が必要とされています。しかし、これらの情報化を円滑にしかも迅速に進めるためには、学校の実態や教育の内容、さらには情報機器の有効な活用などを理解した人材が必要です。これに対応して、文部省の協力者会議において「情報

化推進コーディネータ」の必要性が提案され、その人材育成や制度の確立が急務となってきました。情報化推進コーディネータは、小中高等学校の情報教育の推進や学校の情報化を支援する重要な役目を担い、コンピュータやネットワークに関する技術的な能力だけでなく、学校教育全般に関する広い知識と理解が必要となってきます。

今回の研修では、情報化推進コーディネータに必要とされる、学習に関する問題解決能力、校務に関する問題解決能力、ネットワーク技術に関する問題解決能力、コミュニケーション能力の育成を目標としています。そのため、コースの構成も、何かを覚えると言うよりも、必要な情報を入手し問題解決の提案力をつけることに重点を置いています。趣旨をご理解の上、研修に積極的に参加されますよう期待しています。

社団法人日本教育工学振興会(JAPET)会長 宮島龍興
情報化推進コーディネータ養成研修開発部会 主査 永野和男

1. 研修の概要

本研修では、下記サブジェクトを対象として、最終的には演習の発表を通じて総合的問題解決能力の育成をはかります。

サブジェクトごとの評価

- ・学習に関する知識と環境設計能力育成の検証
- ・学校組織の理解と企画力育成の検証
- ・ネットワーク構築技術に関する育成の検証
- ・コミュニケーション能力育成の検証

成果目標

- ・情報化推進コーディネータに必要な知識の獲得
- ・情報化推進コーディネータに必要なスキルの獲得

サブジェクト

- ・学習編・校務編・ネットワーク・技術編・コミュニケーション・スキル

2. 評価の種類

- 1) 主観評価: アンケート等
- 2) 客観評価1: 事前テスト・事後テスト
- 3) 客観評価2: 演習発表及び提出資料

3. 評価の目的

研修カリキュラム及びコンテンツの効果測定を目的としており、修了証は発行するが、当研修を受講したことによって資格が与えられたり、義務が発生したりすることはない。

また、今回の研修で得られたデータを元に将来は資格試験等の基準を作成してゆきたいと考えている。

第1回研修会の内容

第1日目

挨拶(押田克己 JAPET専務理事)・オリエンテーション(三谷新太郎 JAPET教育部長)・事前調査・情報化推進コーディネータの役割(1)(永野和男 静岡大)・PCへのネットワークへの環境設定(鈴木二正 慶応義塾幼稚舎・折田一人 前橋市教委)・情報化推進コーディネータの役割(2)(永野和男 静岡大)・人間関係作り(原克彦 園田学園女子大)

第2日目

講話「教育の情報化」(井上志朗 岐阜大附属中副校長)・校務の情報化演習説明(石原一彦 大津市瀬田小)・学習環境デザイン(1)(山西潤一 富山大)・新しい学習カリキュラム(堀田龍也 富山大)・新しい学習カリキュラム(原克彦 園田学園女子大)・新しい学習カリキュラムまとめ(永野和男 静岡大)

第3日目

特別講演「技術と社会的インパクト」(西和彦 アスキー)・インターネットテクノロジー演習の説明(鈴木二正 慶応義塾幼稚舎)・インターネットテクノロジー演習(1)(鈴木二正 慶応義塾幼

稚舎)・インターネットテクノロジー演習(2) 鈴木二正 慶応義塾
 幼稚舎・折田一人 前橋市教委)・校務の情報化演習(石原一彦
 大津市瀬田小・折田一人 前橋市教委)

第4日目

学習環境デザイン(2) 山西潤一 富山大・美馬のゆり 埼玉大・永
 野和男 静岡大)・インターネットテクノロジー演習(2)つづき(鈴
 木二正 慶応義塾幼稚舎・折田一人 前橋市教委) ここで高橋
 邦夫 千葉東金女子校校長登場・第1回課題説明および予備練習

公立はこだて未来大学開校迫る

函館市に新たな大学が誕生しようとしています。その名も「公立はこだて未来大学(2000年4月開学予定)」。学部はというと「複雑系科学科」と「情報アーキテクチャ学科」の2つの学科からなる、『システム情報科学部』。「複雑系科学科」は学部教育の段階で複雑系科学教育を行う学科としては、日本で初めて設立されます。

また、「情報アーキテクチャ学科」はネットワークシステム、ロボティクス、情報デザインの3分野が柱となります。学校案内の中には「公立はこだて未来大学は“化ける”かもしれない」と言ってくれる人達があります。公立はこだて未来大学は大きくブレイクする可能性をもっています。準備中である今は、玄人の注目を集めているものの、多くの人達にはまだ知られた存在にはありません。しかし、できたときから日本の中で、あの大学は一味違うと言われるようにします。もっと大きく、世界の中で「Future University-Hakodate」と一目置かれる大学になっていこうと思っています。」とうたわれています。

さて、道南の都市部に弱いといわれていた ACE 北海道ですが、果たしてこの大学は ACE 北海道の新たな遊び場となるのでしょうか？まずは開校後偵察にいかないかね > 入澤先生

ACE 教育セミナー開催

来る9月25日(土)、アップルコンピュータさんの協賛により、以下のとおり ACE 教育セミナーを開催します。

今回のセミナーは全体を2部構成とし、午前中は10月からコラボレーションを開始する「バーチャル雪まつり(VSF)」を題材に取り上げ、学校におけるインターネット活用の現状と課題を考えるとともに、VSF参加を希望するみなさんへのプロジェクト・ガイダンスもあわせて行いたいと思います。

午後は、「教室用ネットワークシステム構築ワークショップ」として、Macを利用した教室ネットワークにポイントを絞ったワークショップを実施します。メインテーマはOSX Serverです。

一応参加は一般対象ですが、なるべく ACE の先生方を優先したいと思います。午前のみ、午後のみ参加も可能です。

【参加ご希望の方は、事務局・青柳まで。】

aoyagi@hokkaido-np.co.jp TEL.011-210-5506

注目！ 遠隔地から参加を希望される方へ。交通費補助に関する程度ご相談に乗れるかと思しますので、ご連絡下さい。

ACE 教育セミナー 開催概要

日時：9月25日(土) 10:00 ~ 16:00

会場：札幌市ネットワークプラザ

(札幌市中央区北1条西3丁目 第百生命ビル5F)

主催：教育とコンピュータ利用研究会(ACE)北海道支部

協賛：アップルコンピュータ株式会社

協力：株式会社 Too 札幌支店

対象：札幌市内の教育関係者を中心に30名

参加費：無料

内容：

午前の部(10:00 ~ 12:00)

「学校におけるインターネット活用の現状」

~バーチャル雪まつりプロジェクトを題材として~

午後の部(13:00 ~ 16:00)

「教室用ネットワークシステム構築ワークショップ」

1.AppleshareIP6.2とAppleネットワークアシスタント3.5.1による高品質で安価なネットワーク

2.MacOSX Serverによるネットワーク

上記2つのテーマを、事前講習を受けた先生のチームが構築事例として発表します。

終了後、懇親会を予定しています。

編集後記

Palm=WorkPad続々接触感染中。 (吉田)

VSFに参加しよう。きっといいことがあるよ。 (青柳)

VSFの合い言葉を「パーチャンからほんものへ」という間違いだけはしないでください。しかし、パーチャンに参加してもらってもいいんです。 (水越)

遅ればせながらWorkPad(C3でないほう)を買いました。結構いろいろ使えます。でも会議があるとシステム手帳とWorkPadと一緒に持ち歩いているわたし・・・まだまだですね。 (野口)

POEMに続き東京へ。ITC(情報化推進コーディネータをこう呼ぶらしいです)研修に参加してきました。講師陣は千葉東金女子の高橋「校長」先生、元・平野小の石原先生や元・前橋四中の折田先生などその筋では著名な方ばかりです。講師陣に知り合いが何人かいるので生徒の私はちょっと照れています。しかし、世の中似たような方が随分いるようで、ITC研修で同じチームになった斎藤さんという方は自宅にUNIXマシンを構築し、専用線であらゆるサーバーを構築しているといいます。実際ぼくらのチームはいちはやくグループ用MLとFTPを立ち上げました。さて、夜はという溝口先生@玉川とすっかり意気投合し、横浜のおでん屋台を堪能してしまいました。博多中州もよいですが、非常に蒸し暑い中で塩辛いおでんもなかなか乙なものです。全部で16軒の屋台があります。なんとか3回の研修で全部の屋台を制覇しようと2人は目論んでいます。そんな訳で、11月くらいまでACEの研修会から足が遠のくかもしれませんが、必ず皆さんのお役に立つ「ヒューマンHUBあらしまん」となるよう、辛いけどがんばってきます。学校はというと2学期がはじまり、新しい教育課程編成&インターネット接続に向けて校内バトルがはじまります。みなさんのパワーをお借りする日も近づいてきました。今後とも一つよろしくネ。 (荒島)

臥薪嘗胆。 (武田)

教育とコンピュータ利用研究会 北海道支部

1999年8月31日発行

事務局：〒060-8711 北海道札幌市中央区大通西3-6

北海道新聞社 情報開発本部内(担当：青柳・吉田)

TEL 011-210-5801 FAX 011-210-5532